

# 競 技 注 意 事 項

1. 競 技 方 法 2020年日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項による。
2. アスリートビブス 個人アスリートビブス（ハバカード）（男女赤字）を胸背部につける。ただし、跳躍競技は胸背いずれかでよい。トラック競技に出場する選手（リレーの1～3走者を除く）は全員腰ナンバー（大会本部で用意する）を右腰後方に付ける。
3. 招 集 ○トラック競技は20分前、走高跳・走幅跳・砲丸投は40分前、棒高跳は100分前を招集時刻とする。混成競技のフィールド種目は30分前とする。  
○競技者は招集時刻の10分前までに競技開始場所に集合し、点呼を受ける。  
○競技場に入場できる時刻は招集時刻の20分前からとする。  
○招集時刻に遅れた選手は棄権とみなす。  
○招集所は設けず、競技開始場所で現地招集とする。
4. 練 習 場 ウォームアップ場は補助競技場のみとする。（ウォームアップ場使用上の注意 参照）
5. 使 用 器 具 器具は本部で用意したものを使用すること。ただし、棒高跳のポールは各自のものを使用すること。
6. 競 技 順 予選はプログラム掲載順とし、決勝のレーン順は抽選による。
7. オーダー用紙 リレーに出場するチームは、予選については、事前に配布されたオーダー用紙（男子：水、女子：ピンク）に記入し、8：30までに総合案内に提出すること。決勝については、オーダー用紙を総合案内で受け取り、8：30までに総合案内に提出すること。その後の選手変更については、招集完了1時間前までに総合案内を通して審判長へ申し出ること。
8. トラック競技 ○不正スタートをした競技者は1回目で失格とする。ただし、男女四種競技においては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後に不正スタートをした競技者は、すべて失格とする。  
○100m、110mH、100mHのみ予選・決勝を行い、その他のトラック種目はタイムレース決勝とする。予選から決勝へと進む場合、1レース8名で行う。ただし、同記録で1レース8名を超えた場合は、0.001秒まで着差判定を行い進出者を決める。それでも決められない時は抽選とする。なお、該当者は、通告後5分以内本部席前に集合しない場合は失格とする。  
○リレーは男女とも予選タイムの上位8チームによって決勝を行う。  
○短距離では、事故防止のためフィニッシュライン到着後、自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走ること。

9. フィールド競技 ○予選は行わず決勝とする。  
○走幅跳男女1組はメインスタンド側、2組はバックスタンド側のピットで行う。  
○走幅跳、砲丸投は、トップ8による3回の試技を追加して行う。
10. バーの上げ方 男子走高跳決勝 150 155 160 165 170 175 178 180 以後2cm  
男子四種走高跳 135 140 145 150 155 160 163 166 以後3cm  
男子棒高跳決勝 260 280 300 320 340 360 380 390 400 以後5cm  
女子走高跳決勝 130 135 140 145 150 155 157 以後2cm  
女子四種走高跳 115 120 125 130 135 140 143 146 以後3cm  
(当日変更する場合もある)
11. スパイク トラック種目・走幅跳・棒高跳は9mm以下、走高跳12mm以下とする。
12. 表彰 ○各種目の1～3位に賞状とメダル、4～8位に賞状を授与する。  
○表彰は行わない。
13. その他 ○本大会の男女リレーで1位の学校は、ジュニアオリンピックカップへの出場権を得る。  
○当日の選手変更は一切認めない。  
○当日審判員のいない学校は、選手の出場を停止する。  
○競技する選手以外は、トラック・フィールド内に立ち入ることはできない。  
○空き缶・ゴミ等は各校・各自で責任をもって処理する。  
○応援横幕はスタンド上段に、のぼりはメインスタンド最上段に設置すること。ただし、南側サイドスタンド(保護者観覧席)への設置は禁止とする。  
○テントはメインスタンド、バックスタンドともに上段に設置すること。サイドスタンドは、通路より上に設置すること。  
○ウォームアップ場には、設置してある用器具以外、持ち込まないこと。  
○飛沫感染防止のため、声を出しての応援は行わない。  
○中学生は、原則として競技場内で携帯電話を使用しないこと。  
○トランシーバーを使用する場合には、本部で使用する7・8・9・10・11チャンネルの使用を禁止する。  
○熱中症予防のため、選手は適宜水分補給を行うなどの体調管理に気を付けること。  
なお、競技前に具合が悪くなった生徒は、近くの審判員に声をかけ、指示を仰ぐこと。  
○待機する生徒についてもこまめに水分を取り、日陰に入るなどして適宜休憩をとること。なお、具合が悪くなった生徒は、近くの審判員に声をかけ、指示を仰ぐこと。